

どう人材育成していく？

新春特集

4期生 齊藤 得彌さん

板橋区商店街連合会 会長
板橋区商店街連合会調査研究部長



私は都振連「商店街大学」の4期生(2005年度)です。板橋区商連は人材育成の場として商店街大学を重視し、毎年度、受講生を推薦。その間、私もまた講義を傍聴することがたびたびありました。

そんな経緯から松島茂先生のサポート役として講師となり、第16期(2017年度)からは、学長が松島先生より石原武政先生に引き継がれた後も講師を務め、毎年商店街大学との関わりを深めてきました。

この大学の特徴ですが、フィールドワークに加え、雑学等は印象深く、中でも与えられたテーマに対して自らの言葉で発表したことは気持ちや論議整理の訓練につながったと記憶に残っています。商店街大学は厳しくも楽しかったですね。

今あらためて振り返ると、私はこうした活動に育てられたと感じます。

そして、テーマ「担い手不足をどう乗り越えよう」としているかですが、実は本年度より板橋区商連の大役を引き継ぐこととなり、商店街大学を通じ学んできたリーダーの力量や資質がこれまで以上に重要と感じています。事実、商店街大学修了者で以前より行ってきた取り組みの一つ「区商連役員の後継者に

対話が人材を育てる

もつながっています。

「は、どうしたら人材は育つのか」ですが、

そもそも入って、メリットを感じないと動かないものだと思います。この商店街活動においては、メリットを感じない人は「忙しいから」とか「自分の仕事があるから」と、だんだん抜けていってしまう傾向があると思います。

事業を立ち上げたりしようとすれば、それぞれの人材が自分の好きなことがやれる、「提案を聞いてもらえた」とか、小さくても何かメリットをつかむことが大事になります。

メリットを感じられるような場を保つためには、トップのリーダーシップが問われます。

例えば、事業計画で、どういう準備が必要なのか、ちゃんと時間をかけて見直しを伝えること、組織の「本気度」が問われる事業に取り組む時は重要な姿勢です。

しっかりコミュニケーションを取る過程で、人材が育成される。同時にリーダーも、創意工夫する力やできるだけ選抜肢を多く示す想像力が鍛えられる。だから板橋区商連の会長としては、今以上に「話やすい環境づくり」を目指したいと思っています。

商店街の悩みは「後継者不足」。「担い手不足」も深刻化。かねて指摘されてきた問題です。これらを各地のリーダーたちは、どう乗り越えようとしているのでしょうか？ また、どんな人材育成の有効な策があるのでしょうか？

東京都商店街振興組合連合会が2002年度から20年かけて取り組んできた後継者養成研修事業「商店街大学」の卒業生ら4人に、現場での奮闘ぶりや今後の抱負などを語ってもらいました。

4期生 大塚 智弘さん

下北沢一番街商店街 副理事長
下北沢商店街連合会 事業部長



私は下北沢(世田谷区)にある文具店の3代目で、下北沢一番街商店街の副理事長を務めています。大学卒業後、大型生活雑貨店に勤務していましたが、親に懇願(？)され家業の文具事務用品店を継ぎました。

30年近くたった今でも「社員生活を続けたかったなあ」と思うところがあるのですが、家業を引き継いだからには、その当時としては画期的だったレジの会計システムを導入し、また現在は、さまざまなキャッシュレス決済を活用しています。

一方、商店街活動では地域電子通貨に乗り出し、いち早くデジタル事業を取り入れました。下北沢駅周辺には六つの商店街があり、下北沢商店街連合会(会員約750店)を組織しています。2022年度には東京都の商店街デジタル化推進事業補助金を連合会で申請し、情報を一斉配信したりできるデジタル回覧板を導入しました。

この数年のデジタル技術の進化は、とてつもなく早い。デジタル技術を活用して商店街を運営していくと、その担い手を育成、確保することは商店街だけでは難しく、デジタルに長けた外部の人材や企業を巻き込んでいく勇気が必要だと思います。また、役員の手や後継者

外部を巻き込む勇気

が少ない中で商店街を運営していく上では、事務局機能の強化も課題です。例えば、補助金申請、関係官庁への届け出、決算書類や各種報告書作成など、手間がかかり専門知識を必要とする事務仕事で、この商店街にもあると思います。

しかし、商店街単体で有能な事務局長を常勤で雇うほどの資金と業務量ではないんです。そこで、複数の商店街で共同利用できる事務局があったら良いのではないかと思います。

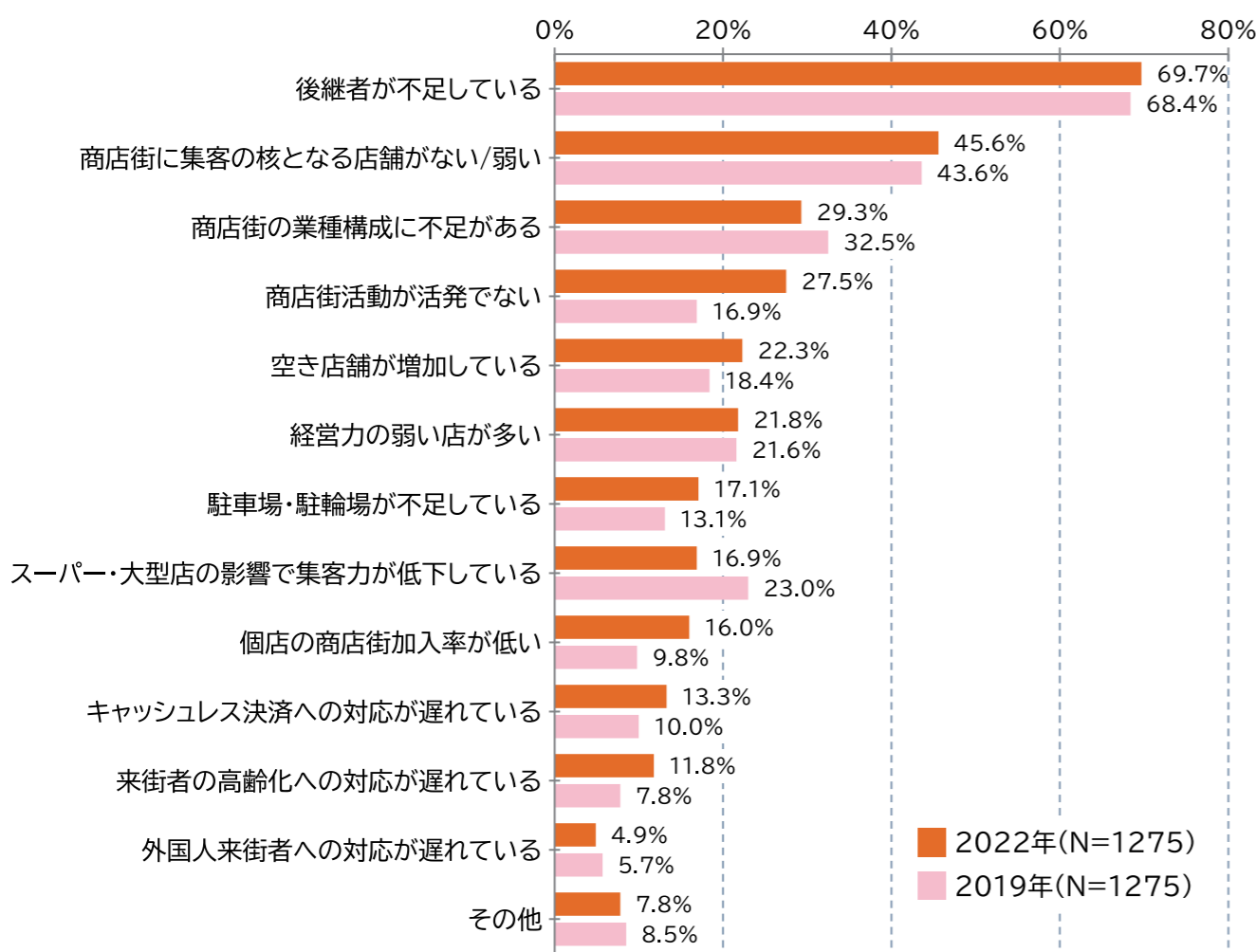
イベントを実施する際には共同事務局が、警備員やバイトスタッフの人員手配、収支報告書や補助金申請書の作成などをしてくれると、役員の事務的負担も軽減でき助かります。東京都にはこのような事務局支援の検討をお願いしたいです。

ここ数年で下北沢は、小田急線の連続立体交差事業により、線路で南北に分断されていたエリアがつながり、街が面々広くなりました。線路跡地や高架下に新しい商業集積(下北線路街・ミカン下北)もできました。

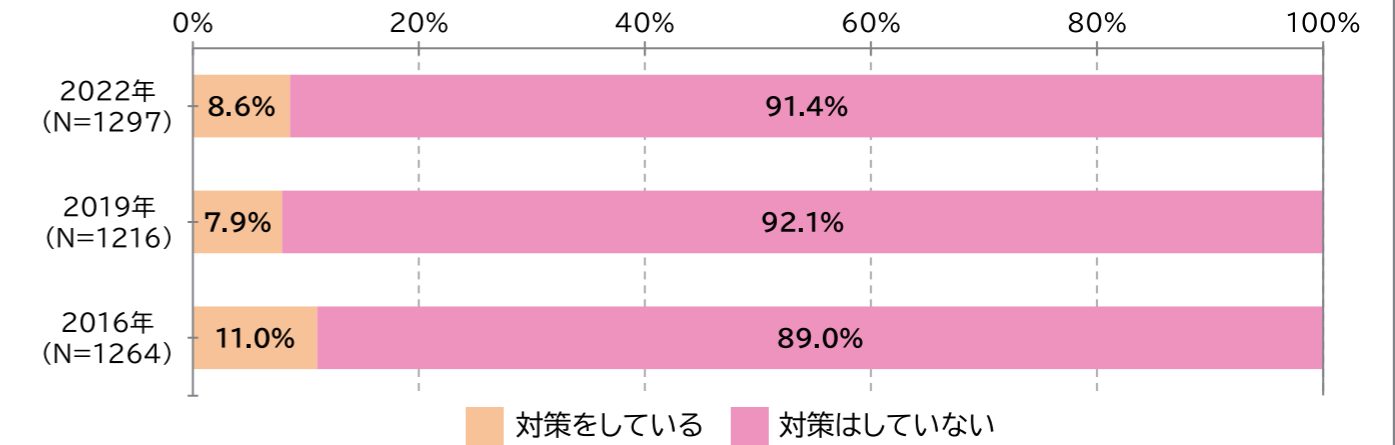
今後は地元企業や電鉄2社の協力を仰ぎながら、六つの商店街が一丸となり、下北沢商店街連合会主催でさまざまなイベントや事業を仕掛けていきたいと考えています。

東京都による都内商店街実態調査のポイント

④ 商店街が抱えている問題点は何？ (複数回答)



⑤ 後継者不足対策している？



⑥ なぜ後継者不足対策していない？ (複数回答)

